

災害実動訓練を実施しての初期対応の評価

独立行政法人 地域医療機能推進機構 諫早総合病院
内視鏡センター ○脇坂 志帆、佐藤 唯、谷口 侑里
吉田絵梨子、福島 友美、福島 昌子
一瀬 幸子

【はじめに】

日本は他国と比べて自然災害の多い国であり、災害による被害を軽減するために様々な防災対策が求められる。A病院内視鏡センターでは、災害机上訓練の実施、アクションカード（以下AC）、被災状況報告書の作成を行ってきたが、実際に災害が起こった時に活用できるかの検証は行っていなかった。そこで今回、災害実動訓練を実施し評価を行ったので報告する。

【目的】

ACと被災状況報告書を使用した災害実動訓練を行い、迅速な初期対応の確立に繋げる。

【方法】

震度5の状況を設定し、スタッフ6名（看護師5名、医師1名）で災害発生から一時避難までの実動訓練を行った。実動訓練直後にACと被災状況報告書を活用できたか、不足がないかディスカッションを行った。その後看護師5名に実動訓練中の行動に関する自己評価を記載してもらい分析を行った。

【結果】

ディスカッションでは、「検査室担当看護師用ACに沿って初期対応、被災・検査状況の情報共有が行えた。」「初期対応が慌てずに行えるよう受付看護師や外回り看護師用のACも必要。」との意見が出た。

災害実動訓練中の行動に関する自己評価では「概ねできた」「よくできた」のみであり、内視鏡センター経験年数による差異はなかった。自由記載には情報共有を更に円滑にするためにACの改善点が挙げられた。意見を基に、検査室担当看護師用AC・被災状況報告書の修正と、受付看護師用・外回り看護師用ACを新たに作成した。

【考察】

今回行った災害実動訓練の自己評価では経験年数に差異がなかったことから、災害時の初期対応にはACが有用であったと考える。災害時の状況や行動について一人一人がイメージし考えることができたため、ACに対する改善点が多く出された。今後、様々な状況を想定した訓練を重ね、ACを見直していくことで、初期対応を確立できると考える。

【結論】

1. ACを使用することで経験年数に関わらず迅速な初期対応ができた。
2. 検査室担当看護師用AC・被災状況報告書の修正が必要だった。
3. 新たに受付看護師・外回り看護師用ACが作成できた。
4. 迅速な初期対応のためには定期的な実動訓練の実施、ACの見直しが必要である。

【参考文献】

- 1) 石井正：「使える」マニュアル整備のための見直しポイント,p12-24,Emergency Care vol.27 no.3
- 2) 高橋純子：内視鏡室における災害訓練の取り組みーアクションカードを導入してー日本消化器内視鏡技師会会報,no.52,p89-91,2014

【連絡先：〒854-8501 長崎県諫早市永昌東町24-1 TEL：0957-22-1380】